



新たな領域の可能性

教育後援会会長 伊本 淳平

生徒の皆様、保護者の皆様におかれましては、いつも教育後援会の活動にご理解と多大なるご協力を頂き、誠にありがとうございます。

詳細は5月の総会にてご報告致しますが、令和6年度に於きましても皆様より多大な額の助成金を頂き、全額高校に納入致しました。これもひとえに教育後援会役員を含めた皆様のご協力のおかげであり、この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、昨年大きな出来事として、東京工業大学と東京医科歯科大学の統合に伴い、当校の校名も「東京科学大学附属科学技術高等学校」へと変更され、教育後援会の名称からも「東工大」の文字が消滅しました。OBの一人としては寂しい気持ちもありますが、一方で本校の高大連携プログラムでは、早くも湯島キャンパスでの医歯学系分野の講義や、病院設備の見学などが実施されたとのこと（Facebook 2024年12月20日記事参照）、本校の生徒さんが学べる学問の分野や進路についても新たに広がる可能性を感じ、より高度な教育や素晴らしい経験を得られる事を期待したいと思います。

我々教育後援会では、昨年も弟燕祭にてバザーを開催し以前と同じ規模の売り上げを達成することが出来ました。こちらも皆様のご協力のおかげであり、併せて御礼申し上げます。（※バザーの売り上げは生徒さんに必要な物品の購入費等に充当致します。）

個人的には今回のバザーの際に比較的長い時間、一号館の入り口で客引きを行いました。そこで目についたのは来場した方々が乗るブランコ。最初は何気なく見ていましたが気がなったので近くに行ってお話を伺えば機械システム分野の生徒さんが溶接などで自作したオリジナルとのことで大変感心致しました。お子さんを含め乗ってくれるお客さんが楽しめる高さ・振れ幅や、乗っている最中に破損しない強度や安全率を考慮して設計・製作、そして安全を確認するテストなどを実施する必要があったかと思います。「お客さんに楽しんでほしい」という目的を実現するためにいろいろな努力や苦勞をされたはず、と勝手に想像し感銘を受けました。

少し話が飛躍しますが、国際的に見て日本の製品の評価が高いのは、安全・安心に使えるといったところが大きいかと思います。高い技術力でこうした安全性を確保するのは非常に重要で、生徒の皆さんは正にモノづくりの原点にして重要な経験を体現しているのだと感じました。

一方本校でも従来から注力していたIT分野の進化も留まるところを知らず、特にAIは自動運転、チャットボット、音声認識、画像処理といった様々な分野において私たちの生活を便利にする目的で導入され、日常でも目にする機会が多くなってきました。

また、コロナ禍の影響やITの発達により通信販売や宅配の利便性は格段に進化しましたが、一方で昔は流通のルートにすら乗らなかった様な、某国製の知的財産権や著作権を無視した違法な偽物、安全を蔑ろにした電化製品・OA機器などの粗悪品、フェイクニュースなどが身の回りにも出回るようになりました。人々の生活を便利にするために生み出された高度な科学技術も、それを悪用すれば人を不幸にしてしまいます。

冒頭でも触れましたが、医療分野で取り入れられている科学技術、例えば内視鏡画像のAI解析や、手術支援用微細操作マニピュレータへのロボット技術の適用、へき地・離島などの過疎地の住民に対する医療の確保のためのITネットワーク技術など、東工大と医科歯科大の合併により、今まで培ってきた本校の科学技術教育にも、人の命を救うための学問である医学という新しい概念、可能性が加わったかと思っています。

本校の生徒の皆さんは崇高な目標を持って科学技術を正しく使い、安全・安心・高品質で社会に貢献するモノづくりに携わる技術者、また医療従事者に育って頂きたいと思えます。

教育後援会ではこれからも生徒の皆さんを支援していきたいと思えますので、保護者の皆様におかれましては、引き続き我々の活動へのご理解ご協力の程、何卒よろしくお願い致します。

2016年3月 建築デザイン分野卒 木原 葉子



自己紹介

建築デザイン分野卒の木原葉子と申します。現在はツバメアーキテクトという一級建築士事務所です。ツバメアーキテクトでは、建築や空間設計の仕事だけに捉われず、「今ある空間にどんなものがあるか」「より良い場所や建築、まちにするには、何を考えなければいけないか」といった設計に関わる前後の枠組みづくりや、リサーチ活動まで様々な形でプロジェクトに携わっています。私が今こうやって楽しく建築のお仕事はできるのは、東工大附属高校での経験が原点にあるからです。建築に興味を持ち始めてから今まで、建築に関わって感じたことや変化について、在学する学生の方や附属高校に入学を考えている方に、少しでも参考になればと思い、寄稿させていただきます。

背景

私の初めの将来の夢は大工さんでした。小学生の頃からものづくりはとて好きで、小さなパーツをたくさん折って組み立てる立体折り紙、ホームセンターでもらった木端での工作、プラモデルやの折り紙建築をつくるなど、立体的なものをよく作っていました。ただ、自分が作れるものは両手におさまる程度のもので、自分より何倍もの大きな建築を作る大工さんはすごいなーとなく憧れていました。

そんな私が建築に興味を持ち始めたのは中学1年生の頃です。私には2歳年上の姉がいます。私が中1の時、姉が中3で受験を控えていたため、家に高校が一覧で載っている冊子がありました。それを見ていた母が「この高校なら建築が学べるみたいだよ」と、附属高校を紹介してくれました。当時の私は、将来自分が何になりたいかなんて、考えていませんでしたが、「高校で建築が学べるなんて楽しそう！」という好奇心で進学を決めました。

高校生時代

高校では、友達にも恵まれ、クラスも部活(陸上部)もとても充実した日々を過ごしました。2年生からの建築分野の授業では、製図や実験、構造、計画など多岐に渡り基本的な知識や技術を学びました。授業で学ぶ内容はもちろんおもしろかったのですが、知識を得るたびに、なんとなく見ていた身近な建築やまちの解像度が上がり、見方が変わっていくことに、もっとおもしろさを感じました。

また、課題研究では、建築に興味を持ち始めた中学生の時にテレビで見た東日本大震災に影響を受け、首都直下型地震の際に、帰宅困難者がビルのエントランスの共用部等を臨時利用し、プライベートを確保しながら寝泊まりできる「折りたたみ式のカプセルホテル」を提案しました。課題研究では、初めて専門で学んだことで人のためになることを考える経験となりました。



課題研究模型写真

大学時代

大学は、高大連携入試で東工大に入学しました。2年生から建築の授業が始まると、私は設計製図の課題に熱中し、徹夜を繰り返すほど、1日の大半の時間を製図室で過ごす生活を送るようになりました(笑)。

設計製図は、構造設計や環境工学といった理論を中心に学ぶ授業とは少し異なり、最適解のない課題に対して、自分なりの考えと提案を表現する授業でした。建物単体の設計ではなく、敷地や周辺環境の調査・観察をしたり、設計する建築の意味や位置付けを考えたり、設計手法そのものを考えたりして、最後は建築として提案し、図面や模型、ドローイングで表現します。最適解がなく、自分なりに課題を解釈し文脈を考えて進めるため、だいたいなにかモヤモヤしてきます。そこで、図を描いてみたり、模型をたくさん作ってみたり、友達や先生と議論してみたりしていくと、そのモヤモヤみたいなものが、徐々に整理されて、設計に展開できるようになります。このよくわからない課題に対して、様々なアプローチで少しずつ紐解き、建築の提案に落とし込むプロセスがとておもしろく、建築やデザインの可能性を考えることに対して、さらに興味を持つようになりました。また、授業時間以外でも友達とさまざまな建築作品や展覧会に行くことも増え、より建築について考えることが増えました。



別荘の設計課題

研究室での活動

学部4年生から大学院の卒業まで、建築家の塚本由晴先生の研究室で活動しました。塚本研究室は、建築学の中でも「意匠系」という分野の研究室で、建築やデザインなどのあらゆる見方や考え方を、建築論として議論する研究室です。研究室の在籍数は30名程の中で、学部生はたったの2名。さらに、その半分くらいは世界中からきた留学生で、日本人の学生も大半は1年間の海外留



天気の良い日に論文ゼミを外で行う様子

学に行くような研究室だったため、毎週ある論文ゼミは、英語で議論が交わされることもあり、急にグローバルな世界に飛び込んだ感じでした。

初めはその環境に圧倒されていましたが、異なる文化をもつ留学生や、海外で様々な経験をしてきた先輩たちに囲まれて、なんだかよくわからない議論に参加していると、「もっとわかるようになりたい!」「もっと視野を広げていきたい!」と思うようになりました。そんな環境に恵まれ、卒業論文では、スペインの留学生との共同研究で、自由が丘の都市変容についてジェンダーの視点から見て論じる論文を執筆しました。日々留学生と議論する中で、彼らの発見や気づきが、意外にも私にとっては当たり前だと思っていたことが多々あり、「私の当たり前は当たり前ではない」ということに気づく機会となりました。

大学院では、授業に加え研究室のプロジェクトを行いました。ちょうど私が大学院1年生のときはコロナのパンデミックの年で、初めの数ヶ月は全てオンラインで論文ゼミや、プロジェクトを進めていきました。プロジェクトでは、新築住宅の設計(ハハ・ハウス,2021)と、千葉県鴨川市の里山再生活動における古民家の改修(古民家したさん,2021)に携わりました。これまでの設計課題と違ったことは、自分一人で設計を提案するのではなく、研究室のメンバーや先生、プロジェクトに関わる人たちなど様々な人とコミュニケーションをとることで、プロジェクトを遂行していくことでした。プロジェクトメンバーとの役割分担やプロジェクトを進めるためのマネジメントの難しさにたくさん直面しましたが、完成を迎えるたびに、みんなで喜びを分かち合えることや、感謝される喜びを味わうことができました。それまでは、ただ自分が好きな建築を「学ぶ」立場でいましたが、その時初めて建築で「誰かのために貢献できた」ことを実感し、将来は建築で誰かの役に立ちたい!という思いにつながりました。



オンラインで新築住宅の設計を進める様子

留学経験

そんなグローバルな環境で日々過ごす中で、私も海外で知らない文化や世界を味わってみたい!と思うようになりました。先生に「海外に行ってみよう」と相談したところ、「外国人になる経験はとていいことだよ」と背中をおしてもらい、「トビタテ!留学JAPAN」の支援で、約1年間スペインのマドリドの建築事

務所にインターン留学しました。インターンでは、ヨーロッパ規模で開催されるコンペに参加したり、都市リサーチや学生とのワークショップに参加したり、様々な人と幅広い経験をする事ができました。

私にとって、この留学が初めての海外渡航でした。気候や町並み、人種や文化、言語が全く違う別世界に飛び込んだことで、日本という国や、日本人の自分を客観的に知る機会にもなりました。



友人と平和デモに参加した時の様子

これまで考えたこともなかったことや、日本では気づけなかったこと、また、ごく普通に日常の中に現れているようなものでも、日記やスケッチや写真で残していきました。そこで気づいたことは、文化や慣習の違いによるものが建築やまちのデザインの違いにも現れていたり、逆にデザインの違いから文化や慣習の違いが現れていたり、その都市での暮らしと建築やまちデザインにつながりがあることでした。留学は、暮らしや身近なことについて、いろんな視点からみたり考えたりする貴重な経験となりました。

これからについて

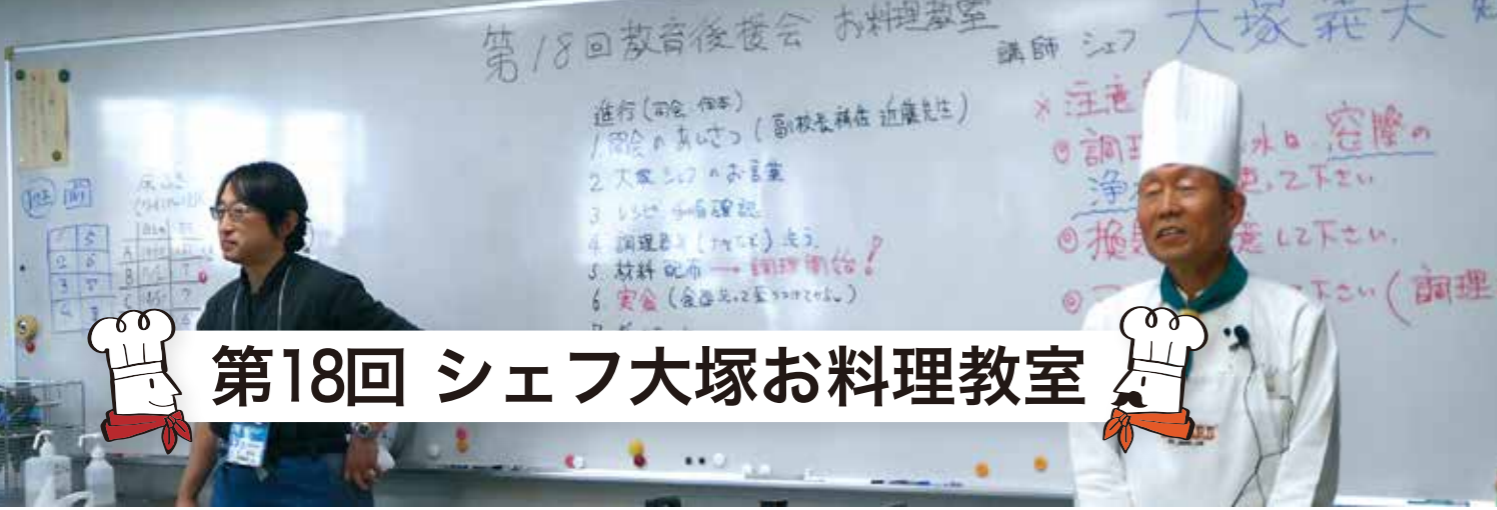
建築を学び始めてから10年目の今、さまざまなご縁に恵まれ、建築分野で楽しく関わることができています。建築事務所での実務にも慣れてきて、一級建築士としてもようやく設計を通して誰かのためができることが増えてきました。

建築のプロジェクトに携われることは、なにか新しい社会を考える機会をいただいていることでもあり、難しい反面たのしさもあります。私がこれから携われるプロジェクトには限りがありますが、その1つ1つに意味を持って取り組み、表現できれば、まちや暮らし、社会は変えられるのではないかと思います。

「建築をつくる」って、もしかしたら「自分より長生きするものをつくる」かもしれない。そのことは、建築に携わるものとして忘れてはいけないと思っています。「今」だけではなく、これからの「未来」のためにも良きものであるために、今よかれと思っていることも、本当にそれがいいのか?と時には立ち止まり、建築分野に限らず常に新しい視点を持ち、楽しみながら頑張っていると思います。



古民家改修プロジェクト 土壁の土づくりを行う様子



第18回 シェフ大塚お料理教室

～脳に必要な栄養素～

受験の脳は、目的達成のための強い意志、受験勉強を行う集中力に記憶力、そして思考力と常にフル活動している状態です。脳の唯一のガソリンであるブドウ糖を切らすことなく脳に補給し、その運転をなめらかにする各種栄養素をおかずにとり入れることが大切になってきます。「〇〇がよい」と聞くと、一種類ばかりを食べる人がいますが、それだと逆効果です。食事の基本はバランスよく食べて、さまざまな栄養素をとり入れること。その上で、脳が必要とする栄養を積極的、効果的に与えていきます。今回は脳の働きを活発にして、勉強の成果を高めるために有効な栄養素を紹介します。

1. 唯一のエネルギー源 糖質

脳のエネルギーとして使ったブドウ糖はリサイクルできません。ですから次から次へと供給する必要があります。ブドウ糖は米、小麦粉、はちみつ、砂糖などの糖質がもとになります。特に米は安定した状態が持続するので受験生には最適です。

2. 脳の機能を維持する タンパク質

脳の機能を担う神経細胞は、乾燥質量にしてほぼ半分がタンパク質でできています。そのタンパク質を構成している物質がアミノ酸です。タンパク質は体内でアミノ酸に分解され、吸収、利用されます。脳のタンパク質代謝は筋肉の倍以上にもなりますから、必須アミノ

酸がバランスよくとれるタンパク質をきちんと食べる必要があります。また、タンパク質は、脳に刺激を与えるのにも効果的な栄養素です。脳を興奮させてやる気を引き起こす物質であるドーパミンやノルアドレナリンの原料になるものも、脳をリラックスさせるものになるものもタンパク質に含まれています。

3. 脳の総合力を高める DHA(ドコサヘキサエン酸)

DHAは長鎖多価不飽和脂肪酸と呼ばれる脂肪酸の一種です。その働きは、ひと言でいえば、脳を活性化し、機能を総合的に高めること。「頭をよくする栄養素」としても有名ですね。DHAを脳の活性化のために役立てたいのなら、DHAをそのままの形で含んでいる青背の魚をおすすめします。青背の魚には、DHAを酸化から守るビタミンEも同時に含まれます。ですから、サプリメントなどでDHAだけをとるより、ずっと効率よく脳を活性化させることができるのです。さらにβカロチン、ビタミンC・Eなどが豊富な人参や南瓜などの野菜といっしょにとると、よりDHAの酸化が抑えられます。

ブロッコリーのチーズ焼き

材料8人分レシピ

ブロッコリー	200g
玉ネギ	100g
しめじ	80g
サラダ油	大さじ2
塩、こしょう	各少々
酒	大さじ2
シュレッドチーズ(ピザ用)	80g

作り方

- ①ブロッコリーは小房に分けて、ちょっと固めに茹でる。
- ②玉ネギは薄切り、しめじは小房に分ける。
- ③フライパンに油を熱し、玉ネギ、しめじを中火で炒め、さらにブロッコリーも入れる。
- ④塩、こしょう、酒で調味する。
- ⑤中央にまとめて、ピザ用チーズをかけ、フタをしてチーズが溶けるまで、弱火で蒸し焼きにする。

鶏ときのこのマカロニスープ

マカロニ入りでボリューム満点！ おかずにもなるスープです。

材料8人分レシピ

鶏ムネ肉	1枚
塩、こしょう、小麦粉	各少々
マカロニ	80g
マッシュルーム	10個
しいたけ	6枚
玉ネギ大	1個
トマト	1個
バター	大さじ3
水	カップ5
コンソメの素	2個
塩	小さじ2
こしょう	少々
生クリーム	200ml
片栗粉	小さじ3

作り方

- ①マカロニをゆでる
マカロニは塩分を加えた熱湯でやわらかめにゆでておく。2cmの長さにカットする。
- ②材料を準備する
鶏ムネ肉は1cm角に切り、塩こしょうをして、小麦粉をまぶす。マッシュルームはスライスに切り、しいたけは石づきを取り4つ割りにする。玉ネギ、トマトは2cm角に切る。
- ③具を炒める
鍋にバターを入れて弱火で溶かし、鶏肉を入れてキツネ色に焼く。マッシュルーム、しいたけ、玉ねぎを加えて、弱火でしんなりするまで炒める。
- ④煮る
水、固形スープの素を入れて煮立て、トマト、マカロニを加えて10分煮る。塩こしょうで調味し、生クリームと片栗粉を混ぜて加え、かき混ぜながら煮立てる

サルティンボッカ風ポークソテー

サルティンボッカは「口に飛び込む」という語源からつけられたイタリアの有名な生牛料理。生ハムとセージを重ねてソテーするシンプルな料理ですが、セージの香りと生ハムの風味で後を引くおいしさ。仔牛肉を豚肉に替えて仕上げにバルサミコ酢のソースをプラスしたチェンジ技で手軽にイタリアンテイストが楽しめます。

材料8人分レシピ

豚肩ローススライス	16枚
生ハム	16枚
セージの葉	16枚
塩、こしょう	各少々
小麦粉(薄力)	適量
じゃがいもSサイズ	8個
オリーブ油	大さじ3
バルサミコ酢	大さじ2

作り方

- ①豚肉を1枚ずつラップではさんで、上から麺棒で軽くたたきながら薄くのばし、生ハムとセージを重ねて両面に軽く塩、こしょうをして、小麦粉を薄くまぶす。
- ②じゃがいもは皮つきのまま下ゆでして水気を切り、アルミホイルで包んで、200℃のオーブンで20分ほど焼きます。
- ③フライパンを熱してオリーブ油を大さじ1なじませ、1の豚肉の面を下にして3〜4枚並べ入れ、中火で焼きます。よい焼き色がついたら裏返して同様に焼き、パットなどに取り出します。残りも同様に焼きます。
- ④③のフライパンの焼き油を捨てて3の豚肉を戻し入れ、バルサミコ酢を加えて中火で手早く全体にからめます。塩、こしょうで味をととのえ、残りのオリーブ油をふりかけて火を止めます。
- ⑤皿に④の豚肉を盛りつけ、皮をむいた②のじゃがいもをつけ合わせます。



ひじきと豆腐のいり煮

脳にエネルギーを送るビタミンB1たっぷりのおかず。ビタミンB1が不足すると脳が働かなくなるだけでなく疲労もたまってきます。

材料8人分レシピ

乾燥ひじき	50g
人参	100g
木綿豆腐	400g
だし汁	2カップ
しょうゆ	大さじ4
みりん	大さじ4
酒	大さじ4

作り方

- ①1. 乾燥ひじき50gはたっぷりの水でもどし、5cmの長さに切る。
- ②人参100gは薄いイチョウ切りにし、鍋に入れる。1とくずした木綿豆腐400gを加える。だし汁2カップ、しょうゆ、みりん、酒各大さじ4を入れて混ぜ、いり煮にする。

イチゴとチョコのチーズタルト

材料8人分レシピ

イチゴ	8粒
板チョコレート	1枚50g
ビスケット	8枚
クリームチーズ	60g
グラニュー糖	大さじ1
練乳	小さじ1

作り方

- ①クリームチーズは室温に戻す。
- ②イチゴはヘタを取り除き、洗わずに、水に浸して固く絞った清潔なキッチンペーパーで表面を軽くふく。
- ③ボウルにクリームチーズ、グラニュー糖、あれば練乳を入れて、ゴムベラでよく混ぜ合わせ、口金のついた絞り出し袋に入れて、ビスケットの上に絞り出す。その上にイチゴをのせる。
- ④板チョコレートを耐熱ボウルに割り入れて、ラップをせずに500Wのレンジに1分強かけて溶かし、スプーンですくい、イチゴの上から垂らしかける。
- ⑤30分ほど冷蔵庫で冷やし、表面を乾かす。



お料理教室(2025年2月1日実施) アンケート

- 家庭でも作れそうな美味しいお料理をいただきました。ご準備いただき、ありがとうございました。
- 本日はありがとうございました。あらためて「食」の大切さを学びました。「食」が心身を作る源で、またさらに少し手間暇をかけて作ってみたいと思いました。役員の皆様方も大変お疲れさまでした。来年も参加したいです。
- 生クリーム1パックや生ハムなど普段あまり使わない素材をランチでいただけて嬉しかったです。品数が多くて全部できるか不安でしたがバッチリできました。素晴らしい！
- とても活気もあり交流も楽しく、お料理のレシピも全部作ってみたいと思います。スープの生クリームに片栗粉を入れるのは初めてで、今度ぜひやってみたいと思います。シェフの健康のひけつはとても参考になりました。おいしい楽しいお料理教室、ありがとうございました。



庭園見学会が開催されたのは11月23日(土)勤労感謝の日。今年で16回目を迎えました。場所は小石川後楽園です。後楽園球場(後楽園ドーム球場)の隣です。

小石川後楽園の庭園見学会は過去の第5回でも行っており、今回は二度目の見学会でした。教育後援会だより14号に門馬副会長(当時)による前回の報告が載っております。本文も門馬先生の報告を参考にさせていただきました。



①小石川後楽園について

小石川後楽園は、寛永6年(1629年)に水戸徳川家頼房が当時の水戸家中屋敷の庭として造園したものです。そして、二代藩主光圀(みつくに・黄門さま)がその後に完成させたものです。「回遊式築山泉水形式」の大名庭園という形式の庭になります。中心に大泉水(大きな池)を置き、その周りを造園した形式です。



「後楽園」の名の由来は北宋時代の政治家、范仲淹(はんちゅうえん)の文「先憂後樂(せんゆうこうらく)」(為政者は、天下の憂いに民に先立って憂い、民の楽しんだ後に楽しむ)より命名したものとことです。



②見学開始

当日は晴天に恵まれました。午後二時前に庭園西門入口に集合しました。参加者は伊本会長をはじめ、長谷川先生、仲道先生、連絡係の今田先生、増田先生、後援会の役員さん、保護者の皆様など合わせて44名となりました。また、お料理教室でお世話になっている大塚シェ



③のんびり散策

池を囲む庭園はみなしの作庭がなされています。当時の名所の見立てとして園内には「鳴門の渦潮」「竹生島」「白糸の滝



「龍田川」「西行堂」などと命名された場所がありました。
・鳴門の渦潮では、実際に池の中に渦潮がありました。
・竹生島は、池底に石作りの構造物が見えましたが、それがどうして竹生島と呼ばれるのか?わかりませんでした。
・龍田川と名付けられた小川が大泉水に流れ込んでいる所があったのですが、紅葉の錦とはまだなっていませんでした…。
現在では、実際に名所に行かれた方々、写真等で見た方々が多くおられ、身近な景色なのでしょうが、江戸時代の人々



には感慨深いものがあったでしょう。
さらに、「梅林」「花菖蒲田」「藤棚」「カキツバタ」「稲田」「蓮池」などの地域がありました。
・残念ながら時期が合わず、花盛りのころ(?)を想像しながらの散策となりました。
・白サギが収穫の終わった稲田に舞い降りて餌をついばんでいました。
・青空のもとやわらかな日差しが照り、のんびりと散策ができました。会話を楽しみました。



④紅葉は見られたか?

当日は残念ながら「紅葉真っ盛り」とまではなりませんでしたが、(1週間後の11月30日頃から紅葉狩りの時期となりました)

⑤まとめ

好天に恵まれ、初冬の半日をのんびりと過ごすことが出来ました。紅葉は盛りにはまだの状況でしたが、都会の真ん中で緑豊かな庭園をのんびりと散策しました。保護者会員の方々も親交を深めておられたようです。



今回は、白サギを見ることができ、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。最後に伊本会長の締めのご挨拶をいただき、庭園見学会を無事終了することが出来ました。本当にありがとうございました。



2024年10月に東京医科歯科大学と東京工業大学が統合し、東京科学大学が誕生しました。本校も「東京科学大学附属科学技術高等学校」として新たな一歩を踏み出しました。今年度、在校生に新生徒証(プラスチックカード)、吹奏楽部には楽器(バストロンボーン)を寄贈していただきました。また高校のロゴが入ったのぼり(Xバナー)も作っていただき、学校説明会等で使わせていただいております。学校を代表いたしまして、教育後援会のみなさまに御礼申し上げます。



文化祭バザー



第燕祭(文化祭)期間中の10月12日(土)、13日(日)の2日間にわたって、教育後援会主催でバザーを実施いたしました。今年度も皆さまから多くの品物をご提供いただき、お客さまも大勢お越しくださり、大盛況のうちに終了いたしました。

今年度の売上は166,600円となりました。品物をご提供いただきました皆さま、当日ご購入いただきました皆さま、厚く御礼申し上げます。

これまでバザーの売上金を活用し、除細動機(AED)の設置や、教材用の車椅子、レスキューセットの購入など、生徒の安全や教育活動に役立つ物を寄付させていただいております。今年度は早坂先生の記事にありますように、音楽の授業や吹奏楽部で使用する楽器「バストロンボーン」を寄附いたしました。これからも学校と相談の上、活用させていただきます。



教育後援会だより第26号 令和7年3月3日発行
 科学大附属高校教育後援会 発行人 伊本 淳平
 HP tokodaihuzoku-koenkai.jp
 制作・印刷 株)あむし http://www.aomushi.com

